

9月定例会

「役場庁舎改修費」を補正
「新型インフルエンザへの対応」報告

9月定例議会が、9月9日から17日までの9日間にわたり開催され、条例の一部改正や財産の処分（町有林立木）を含む12議案と報告2件の計14件が提案、可決されたほか、21年度歳入歳出決算について認定されました。



行政報告

◇米の作柄状況について

東北農政局の8月15日現在における秋田県の作況指数は、95～98で「やや不良」と予想されています。

また、8月17日、県の藤里地区における生育調査を基にした予想では、10a当

り収量は、536kgとなっており、今後、台風等の自然被害が無く順調に登熟が進むと、作柄は平年並に近くなるものと思われます。また、出穂が早かったことから刈取も3日～5日位早まる予想とのこととです。

米の概算払金額については、9月8日以降に提示されるとのことですが、関東圏の早場米価格が内金方式で、コシヒカリが10,000円、こまち、ひとめが9,000円と、いずれも60kg当りの概算金が低く設定されており、販売環境が大変厳しいことが予想されています。

主要野菜の動向ですが、6月の長雨により、一般的には生育が遅れ、ネギの出荷は8月20日以降となっています。他産地での生育の遅れ等もあり、出荷価格は1箱1,500円と高値で推移していますが、作付面積が前年より少なくなっているため、これにより販売額は前年並

になると見込まれています。山ウドは、作付後の天候が良かったことから生育は順調で、昨年以上の収量が期待されており、トマトについては、価格が安定したことから販売額は、計画を上回る額が予想されています。また、今年から出荷が始まったリンドウについては、お盆前が出荷の最盛期となっていました。これまで3名で50aのうち40aの採花を終え、出荷本数は65,650本、販売額は2,800千円でした。

◇立木の処分状況について

今年度予定していた主伐の立木処分は計画通り終え、材積で7,738.39m³、40,400千円の契約予定となっています。入札箇所の3箇所については、財産処分の議案として提案しています。

世界的な金融危機の影響による景気の後退から、原木市場の停滞等、悪影響もありましたが、今回の入札結果は市場状況からしても、概ね納得できる価格での落札価格ではないかと感じています。

今後、国が示している「国産材支給率50%以上を」の森林・林業再生プランに

基づく市町村森林整備計画の策定など、森林・林業施策については、議員の皆様のご意見を伺いながら進めたいと思います。

◇化粧品メーカー・アルビオン
の白神研究所開所式について

本町への設置を進めていた同社研究所の開所式がアルビオン社の小林社長、秋田県からは堀井副知事をはじめ関係者の出席のもと、去る7月27日に「旧米田保育園」で行われています。

開所式では小林社長が、「白神山地との出会いを大きな財産とし、藤里町の一人として地域振興にも貢献していきたい」と述べられていましたが、すでに、研修員による宿泊施設の利用や試験用の契約栽培など、町内への波及効果も見えてきているところですが、本町としてもできる限りの協力をしながら、これを町の活性化につなげ、ともに発展していきたいと考えています

◇地上デジタル放送の難視地域の発生

町内のテレビ地上デジタル放送の難視対策については、今年度、嘉平岱地区と東坂地区の一部11戸について、共同受信施設の新設を予定していますが、テレビ受信者支援センターの受信調査により、下中小比内地区が新たに計画に組み込まれる予定となっています。

来年7月でアナログ放送が終了することとを踏まえ、町でも今後、国（総務省）と連絡を取りながら対策を講じていきたいと考えています。